

学位論文内容の要旨

	佐野 潤子【博士】 【人間発達学専攻 平成7年度生】 (平成12年9月30日 単位修得退学)	要 旨
学位申請者		<p>近年我が国では、女性の社会的活躍が推進されてきている。同時に、女性が働きやすい職場環境や出産後も就労継続しやすい条件についての研究が盛んである。しかし、これまで学校教育におけるキャリア教育を受けた経験が女性の就労に関する意識にどのような影響を与えているのかを検討した研究はほとんど存在しない。この背景を基に、本申請者の研究では、日本の有職母親の仕事満足感に影響を与える要因は何かを明らかにすることである。</p> <p>申請者は学校教育におけるキャリア教育経験に焦点を置き、他にも家族、意識、職場要因を含める総括的な概念枠組みを人的資本論、拡大役割理論、資源理論、選択・交換理論などを援用して構築した。この理論的モデルから導き出した仮説を「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」(お茶の水女子大学)プロジェクトで収集された2011年度のデータ(「ワーク・ライフ・バランスに関する調査～女性のキャリア形成と男性の子育て参加に視点を当てて」)の有職母親のサブサンプル(N=185)を使用し、パス解析分析により検証した。また、同プロジェクトで収集されたヒアリングデータを用いて、仕事満足感に関わる概念を抽出した。</p> <p>主な結果として、有職母親の仕事満足感を高める要因として、キャリア教育経験があること、女性が複数役割を担うことに満足していることなどが明らかになった。また、性別役割分業観が平等志向であることが、母親の複数役割満足感を高めていることもわかった。</p> <p>本論文は以下の点で高い評価が得られた。第一に、キャリア教育経験と女性の仕事満足感に関する学際的な包括理論を構築したことから学術的な貢献度が高いことである。第二に、仕事満足感、複数役割満足感、性別役割分業観などの意識に繋がる教育の重要性を人的資本論などの視点から考察できたことも高く評価された。第三に、パス解析によりキャリア教育経験と仕事満足感の関連を検証できたことにより、今後の研究課題として学校教育と成人後の就労の関係を検討する重要性を提示したことである。第四に、実践・教育面で特にキャリア教育の重要性についてのインプリケーションを導き出したことである。</p>
論文題目	有職母親のキャリア教育経験が仕事満足感へ与える影響－学際的視点からの検討－	
審査委員	(主査) 教授 石井 クンツ昌子	
	教授 小玉 亮子	
	准教授 斎藤 悦子	
	教授 藤崎 宏子	
	教授 大森 正博	